

国立駅周辺 整備事業 の現在



2017（平成29）年6月
国立市

はじめに

国立市は、J R 中央線連続立体交差化事業に伴う国立駅南北の一体化を、人を中心にした個性あるまちづくりを行う好機と捉え、平成 21 (2009) 年 11 月に「国立駅周辺まちづくり基本計画」(以下、基本計画) を策定いたしました。

基本計画策定後、市民参加の国立駅周辺まちづくり会議を設け、駅前広場のあり方などを検討し、基本計画に記された事業の実現に向けた、関係者、関係機関との協議などの取り組みを進めてまいりました。

その結果、旧国立駅舎再築事業等、3 事業に関しては、平成 27 (2015) 年 4 月、都市再生整備計画に基づく社会資本整備総合交付金対象事業として国に採択されるとともに、国立駅周辺の道路整備事業に関しては、東京都の市町村土木費補助の支援を受けられることとなりました。また、約 10 年もの懸案であった、旧国立駅舎再築用地に関しては、土地所有者である東日本旅客鉄道株式会社(以下、J R 東日本) のご協力のもと、平成 29 (2017) 年 2 月に取得することができました。南北駅前広場に関しても、交通管理者との協議が整い、平成 29 (2017) 年度から工事が始まります。

この間、関係者、関係機関等との協議、検討を積み重ねて、個々の事業内容を決定してまいりましたが、これまで国立駅周辺の整備内容を、網羅的に説明する冊子はありませんでした。

ここで改めて基本計画策定からの経緯を振り返り、これからの国立駅周辺がどのように整備されるのかについて説明する冊子を作成いたしました。広く市民の皆様にご確認いただくと幸いです。

本冊子に記されている内容は、多くの市民、議会、関係機関、関係事業者の皆様のご理解、ご協力によりまとめられたものです。改めて感謝を申し上げますとともに、引き続きご理解、ご協力たまわりますよう、お願いいたします。

これからも多くの人に愛され、住みたいまち、住み続けたいまちとして発展を続けていくよう、これからの 100 年に向けたまちづくりを行ってまいります。

1. これまでの経緯

(1) 国立駅周辺まちづくり基本計画

・国立駅周辺地域は、国立市の上位計画で、国立市の玄関口として重要な地域として位置付けられています。国立駅周辺のまちづくりを進めていくにあたっての基本的な方向性を示したものとして、国立駅周辺まちづくり基本計画を平成 21（2009）年 11 月に策定しました。

・基本計画ではまちづくりの理念を

－まちと人がつながる、緑と文化のくにたち広場－

とし、以下の 5 つをまちづくりの目標として定めています。

- ①市民が集い、来訪者を迎え、にぎわいと交流のあるまちづくり
- ②人にやさしい、安全で安心な環境作りや環境負荷低減のまちづくり
- ③駅周辺の景観とシンボルをいかしたまちづくり
- ④個性的なまちなみを生かした回遊性のあるまちづくり
- ⑤出会いと発見、文化を発信するまちづくり

・この計画に基づき、以降、事業内容の検討、決定を行ってまいりました。

(2) 国立駅周辺まちづくり会議

・国立駅周辺の整備事業を推進するために、多岐にわたる事業を一貫してコーディネートしていくことを目的に、市民や学識経験者、関係機関等が一堂に会して事業を検討できる組織として、国立駅周辺まちづくり会議（以下、まちづくり会議）を設置し、関係機関との協議に向けた条件整理等の検討を行いました（公募市民 4 名を含む 12 名の委員）。

・まちづくり会議は、平成 22（2010）年 8 月から平成 25（2013）年 9 月まで開催され、国立駅南北駅前広場の整備方針、国立駅周辺の交通計画、旧国立駅舎再築を含めた国立駅周辺の景観のあり方、国立市が利用可能な高架下部分の活用方法等を検討しました。

・それを受けて、以後の関係機関との協議、事業展開に向けた補助金申請等、事業の具体化については市に委ねられることになりました。

(3) 個別事業の具体化の検討、決定

・平成 25（2013）年度に J R 中央線連続立体交差事業が完了し、国立駅周辺整備事業の着手が可能になりました。平成 27（2015）年 4 月に、国に都市再生整備計画に基づく社会資本整備総合交付金対象事業として旧国立駅舎再築事業等 3 事業が採択されました。

・国立駅周辺の交通計画は、交通管理者と段階を分けて協議を行い、平成 27（2015）年 4 月に北口駅前広場、北 1 号線、西 1 号線、西 1 条線（延伸部含む）について協議を終了し、平成 28（2016）年 1 月に南口駅前広場、東 1 号線について協議を終了しました。

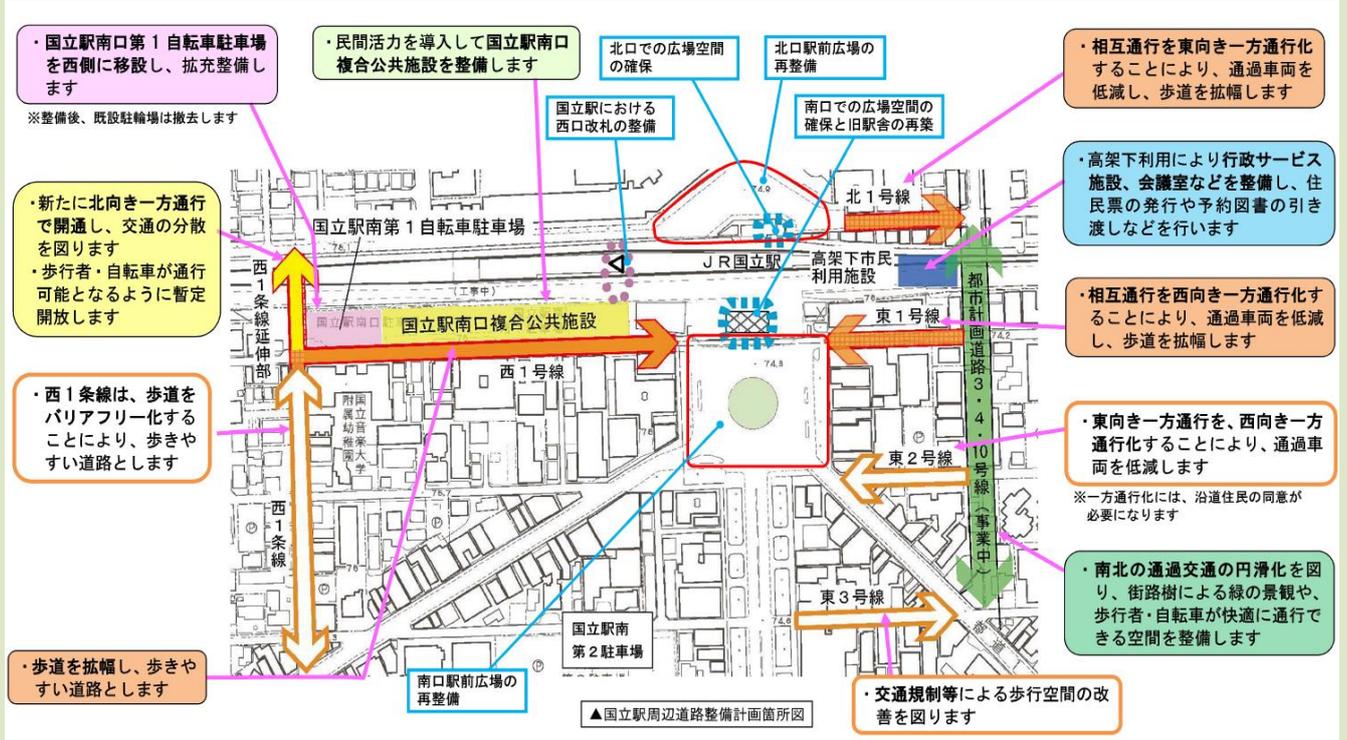
・旧国立駅舎再築事業は、土地所有者である J R 東日本のご協力のもと、平成 29（2017）年 2 月に用地売買契約を締結いたしました。

・高架下市民利用施設整備事業は、広域連携の観点から、共同で施設を設置するために、国分寺市と協議してまいりました。平成 28（2016）年度に実施設計を完了いたしました。

・南口複合公共施設整備事業は、平成 27（2015）年に「国立駅南口複合公共施設整備基本計画（素案）」の策定、パブリックコメント等を行いました。平成 28（2016）年に「国立駅南口複合公共施設整備基本計画（案）」を策定した後、「国立駅南口複合公共施設整備基本計画」をまとめました。

2. 国立駅周辺整備における各事業の整備内容

(1) 国立駅周辺道路整備事業



【整備の考え方】

- 国立駅周辺を歩きやすい空間とするため、道路の一方通行化を行い、歩道を拡幅します。
- また、国立駅周辺の交通体系を変更することで国立駅前の通過交通を低減します。
- 都市計画道路3・4・10号線、北1号線、東1号線については、電線共同溝を整備し、電線を地中化することで、良好な道路環境とします。
- これまでに国立駅周辺まちづくり会議で議論し、交通管理者と協議してきた広場計画等の内容を踏まえ、国立駅周辺全体の交通規制のあり方について、整備に向けた協議を行います。
- これまでの関係機関等との協議を踏まえた整備の予定は、以下のとおりです。

○整備実施路線：3・4・10号線、北1号線、東1号線、西1号線、西1条線延伸部

○整備検討路線：西1条線、東2号線、東3号線

※整備検討路線については、路線断面の大幅な変更がないため、道路の損傷状況や財源を見据えて、今後、整備手法の検討を行います。

【整備工事スケジュール（予定）】

- ・都市計画道路 3・4・10 号線 : 平成 30 (2018) 年度 ~ 平成 32 (2020) 年度
- ・北 1 号線 : 平成 31 (2019) 年度 ~ 平成 32 (2020) 年度
- ・西 1 号線 : 平成 33 (2021) 年度
- ・西 1 条線延伸部 : 平成 32 (2020) 年度
- ・西 1 条線 : 平成 35 (2023) 年度
- ・東 1 号線 : 平成 33 (2021) 年度 ~ 平成 35 (2023) 年度
- ・東 2 号線 : 平成 35 (2023) 年度
- ・東 3 号線 : 平成 35 (2023) 年度

■整備後の北 1 号線（北口駅前商店街沿い）のイメージ



■整備後の都市計画道路 3・4・10 号線のイメージ



■整備後の東 1 号線のイメージ



(2) 国立駅南北駅前広場整備事業

① 北口駅前広場整備事業



【整備の考え方】

- ・北口駅前広場は自動車動線を整理し、歩行者の横断距離を低減することで安全性の向上を図ります。
- ・ラチ外コンコース（通称、南北通路）前に環境空間となる広場を整備して、北口駅前広場－旧駅舎－南口駅前広場の一体化を図ります。
- ・北1号線の歩道拡幅やJR東日本による歩行空間「ののみち」整備と併せて、国立駅周辺の回遊性が高まります。
- ・駅側のバス停にもシェルターを整備することで、雨天時等のバス待ちがしやすくなります。

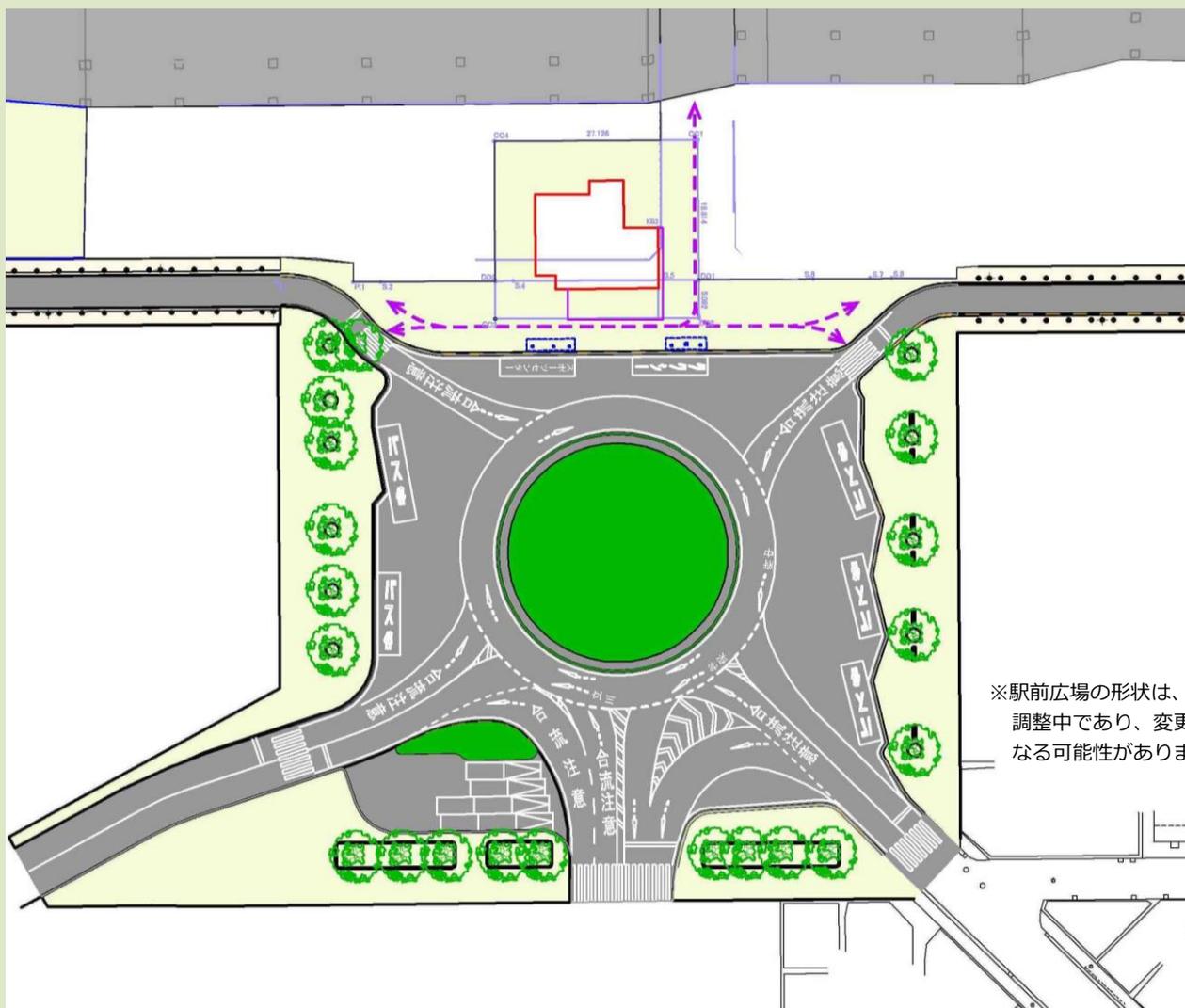
【整備工事スケジュール（予定）】

- ・平成 29（2017）年度 ～ 平成 30（2018）年度



■ 整備後の北口駅前広場のイメージ

②南口駅前広場整備事業



【整備の考え方】

- 南口駅前広場はロータリー形状を維持したまま、歩行者空間を拡大します。また、交通動線を整理して安全性を高め、バリアフリー対応とします。
- 円形公園の活用については、イベント時等、非日常的に市民が立ち入り可能となるように検討、協議を行います。
- バス停は車いす等でも乗降可能なように、ロータリーの外周に設けることとします。
- これに伴い、乗降のバス停が同じ位置となります。

【整備工事スケジュール（予定）】

- 平成 33（2021）年度 ～ 平成 35（2023）年度

(3) 国立駅周辺公共施設整備事業

①各施設の整備コンセプト



- ・国立駅周辺には、旧国立駅舎、南口複合公共施設、高架下市民利用施設を整備し、国立駅周辺だけでなく、国立市全体の魅力を高めます。
- ・上図のとおりエリア別に各施設のコンセプトを設定し、機能を配分して整備します。

②旧国立駅舎再築事業

【整備の考え方】

○旧国立駅舎の配置と景観



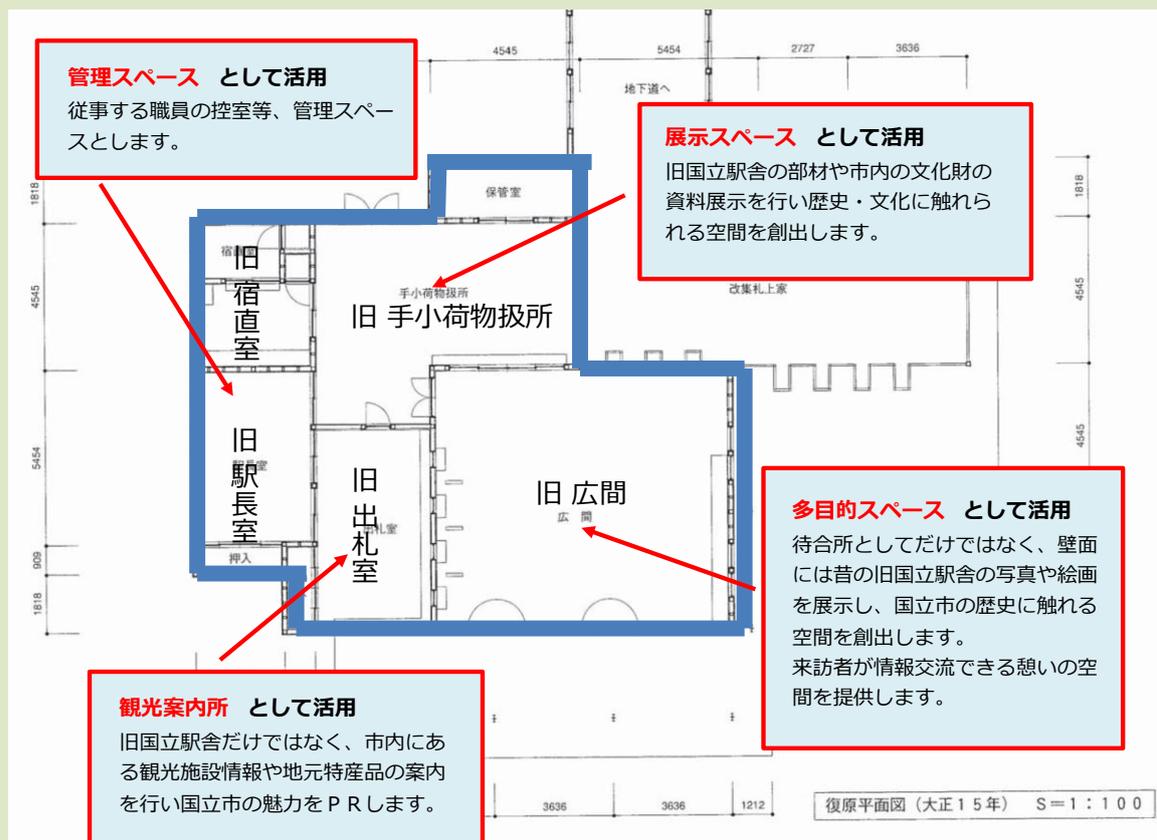
- ・旧国立駅舎再築用地の周辺は、都市計画マスタープランで都市拠点として位置付けられているとともに、用途地域が商業地域と定められています。また、国立市景観形成基本計画に基づく都市景観形成重点地区候補地に位置付けられています。
- ・大学通りから見た、旧国立駅舎及び旧国立駅舎再築用地に隣接する用地に建てることができる建築物のイメージは上図のとおりです。
- ・旧国立駅舎再築用地に隣接する用地に事業の計画がある場合は、国立市まちづくり条例及び国立市都市景観形成条例に基づき、市のまちづくりに関する施策に照らし、旧国立駅舎の再築を前提として、国立の玄関口として景観に配慮し、市民が集い来訪者を迎え、にぎわいのある駅前とするための助言・指導を行うなど、隣接地所有者であるJR東日本と協議します。

○旧国立駅舎の再築用地について



- ・再築用地は、旧国立駅舎の周囲に建物の壁から約 5m の空間を確保した約 648 ㎡ の土地です。
- ・そのうち、約 138 ㎡ はもともと市が所有していた土地で、残り約 510 ㎡ は、J R 東日本のご協力により、平成 29 (2017) 年 2 月に取得した土地です。
- ・再築位置は、駅周辺の歩行者動線の検討や J R 東日本との協議の結果、元の位置から西方向に約 4m、南方向に約 5m 移動した位置とし、駅利用者の歩行者動線を阻害しない場所としています。

○旧国立駅舎の活用について

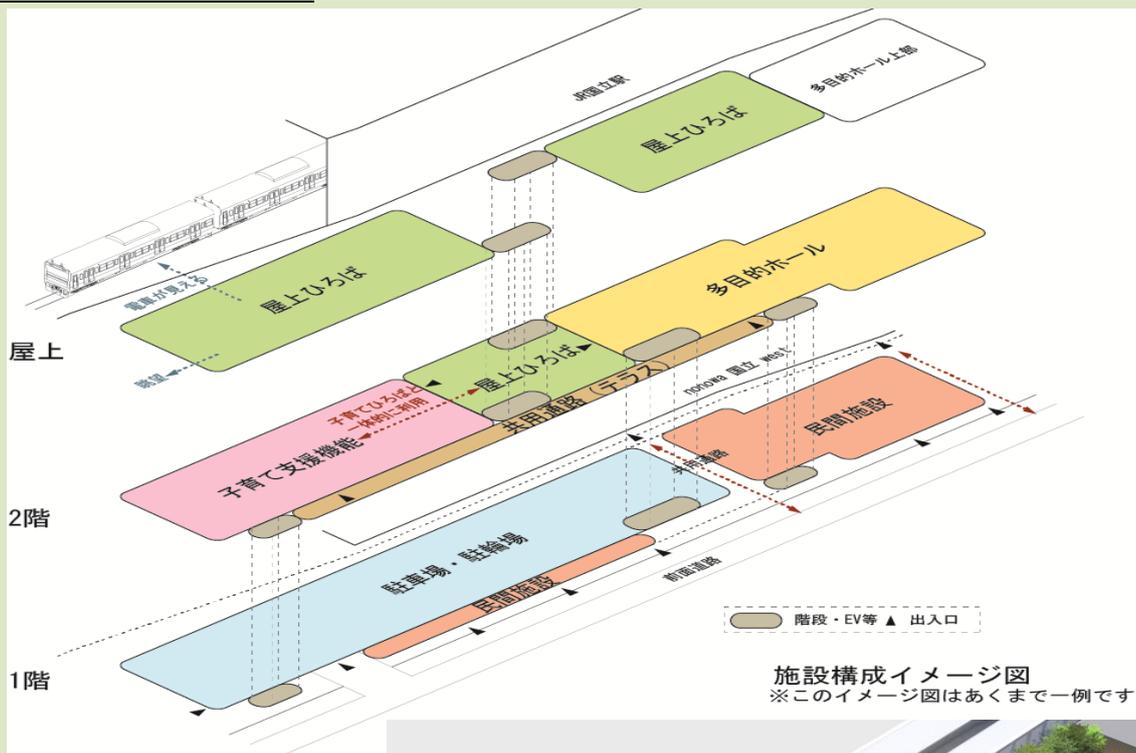


- ・旧国立駅舎は、文化財として大正 15 (1926) 年当時の駅舎に再築し、展示スペース、多目的スペース、観光案内所等を整備します。
- ・歴史・文化等の展示機能や市内の様々な情報発信機能を有し、市民や来訪者に市の魅力を発信します。

【整備工事スケジュール (予定)】

- ・平成 30 (2018) 年度 ~ 平成 31 (2019) 年度

②南口複合公共施設整備



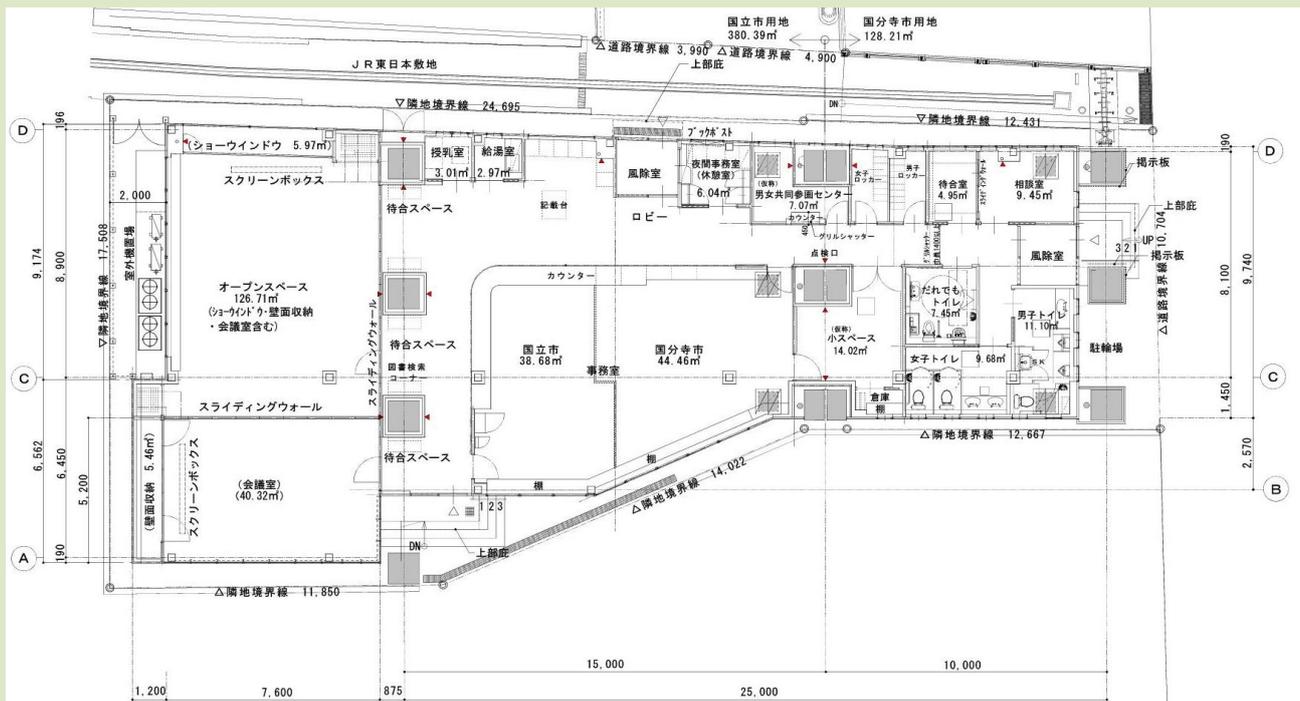
【整備の考え方】

- ・平成 29 (2017) 年 2 月にまとめた「国立駅南口複合公共施設整備基本計画」に基づいて整備します。
- ・キャッチフレーズを「もっとくにたちが好きになる場所」とし、
 - ①人を“もっと集める”ための「賑わい創出」
 - ②市民が「子育て」「文化」を“もっと広げる”ための居場所づくり
 - ③市民を“もっと支える”ための「文化・交流」機能の導入
 の 3 点を整備方針としています。
- ・公共施設部分における導入機能は、①子育て支援機能、②多目的ホールです。
- ・低層階には導入予定の公共機能との相乗効果が期待できる民間施設を配置します。
- ・駐車場は、駅周辺の駐車需要など、必要な台数を考慮して適切に配置します。
- ・壁面後退等により歩行者空間を創出し、駅周辺の回遊性の向上を図ります。
- ・低層、緑化、自然エネルギーの活用等、文教都市にふさわしい景観等に配慮した施設を目指します。

【整備工事スケジュール (予定)】

- ・平成 32 (2020) 年度 ～ 平成 33 (2021) 年度

③高架下市民利用施設整備



【整備の考え方】

- ・ 国立駅周辺における市民生活を支える施設として、国立駅の東側高架下（nonowa 国立 EAST の東側）に整備します。
- ・ 平成 28（2016）年 4 月に国分寺市と「国立駅東側高架下市民利用施設等の整備・利用事業に関する基本協定書」を締結し、国分寺市と共同の施設として整備します。
- ・ 各種証明書の発行や予約図書の引き渡しなどを行う市民サービスコーナー、（仮称）男女共同参画センター、オープンスペース等を設置します。
- ・ オープンスペースは、市民交流イベント等を行うことができる空間として整備します。

【整備工事スケジュール（予定）】

- ・ 平成 29（2017）年度

■北側から見た整備後の高架下市民利用施設のイメージ



3. 事業スケジュール予定

事業	年 度						
	29	30	31	32	33	34	35
西第1号線整備	▶				▶		
西第1条線整備					▶		
西第1条線延伸部整備				▶			
北第1号線整備	▶						
東第1号線整備	▶				▶		
東第2号線整備					▶		
東第3号線整備					▶		
国立駅北口駅前広場整備	▶						
国立駅南口駅前広場整備	▶				▶		
旧国立駅舎再築	▶						
高架下市民利用施設及び 北口ポケットパーク	▶						
国立駅南第1自転車駐車場整備	▶						
南口複合公共施設	▶				▶		
3.4.10号線(南)整備	▶						
3.4.10号線(北)整備	南工区の進捗及び経済動向を勘案し着手時期を決定します。						

編集／発行：国立市まちづくり推進本部国立駅周辺整備課

電話：042-576-2111 内線 382・383